



ドラッカーの経営学

(10月のごあいさつ)

平成22年10月28日(木)

台風14号が近づいています。

秋遅くの台風は大型で強烈ということで、天気予報は3日も前から14号の進路を予想しています。こんな予想が出来ることはすごいことだと思います。

来年の4月から琉球大学で観光学部長の牛窪潔先生のドラッカーの経営学(中小企業論)が始まるということだ。

その話をきいて、是非とも受講できたらと早速ドラッカーを読み返している。とにかく、「現代の経営」(上田惇生訳)を読んでその説得力と新鮮さに驚いて、今月はその中から要約して抜き書きをさせていただいた。

「マネジメントは事業に生命を与える力にあふれた存在、創造的な活動により組織に経済的な成果をあげさせる責任がある。」

「しかも、成長可能な資源は人的資源だけであるということが明らかである。他の資源は、すべて機械的は法則に従う。利用の巧拙はあれ、産出が投入を上回ることはない。それどころか、人間以外の資源を投入した場合には、不可避的は摩擦による消耗をいかにするかが問題になる。われわれが利用できる資源の中で、成長と発展を期待できるものは人間だけである。」

「事業の目的は企業の外にある。事業の目的として有効な定義はただ一つである。それは顧客を創造することである。市場は、神や自然や経済的な力によって創造されるのではない。マネジメントによって創造される。顧客が事業の土台であり、顧客だけが雇用を創造する。企業の目的が顧客の創造であることから、企業には二つの基本的な機能が存在することになる。すなわち、マーケティングとイノベーションである。この二つの機能こそ、まさに企業家的機能である。」

可能なかぎり「単純かつ簡単な組織の活動分析、意思決定分析、関係分析が必要である。マネジメントは必要とされる階層の数を最小限として、命令系統を最短とした」機能する組織を作らなければならない。

「要するに企業は、働く人とたちに対し、進んで何かを行うことを要求しなければならない。企業が要求しなければならないことは、仕事であり、受け身の気持などではない、正しい配置と仕事に対する動機であり、意味のあるものは満足ではなく責任である。誇りや達成感、仕事と離れては生み出されない。仕事の中から生まれることが必要である。」